



莫大な公費を投じる駅前再開発事業

# 福井駅前 は復活なるか

北陸新幹線福井開業に向けて、JR福井駅前で民間主体の市街地再開発が進んでいる。複数のマンションやホテル、商業施設が立ち並ぶことになり、駅前の活性化に期待が持たれるが、それぞれの計画が個別に動き、再開発完了後の全体像が想像し難い。1年延期された新幹線が開業し、大規模施設が立ち並ぶと福井の駅前がかつてのにぎわいを取り戻すのか、甚だ疑問である。

## 民間の再開発に膨らむ補助金

福井駅前の通称「三角地帯」と呼ばれる駅西口の駅前電車通り北地区のA街区では、本格的に工事が始まった。商店のシャッターが下り、アーケードは解体。一部歩道が通行止め、一部車道は1車線になった。駅西口南側の駅前南通り地区や南北の中間にあるス

ーパー「ハニー」跡地でも再開発が進む。

A街区の解体工事を前に、営業していた33店舗が店を閉じた。高度成長期にあつて賑わった駅前電車通りとともに歩んできた老舗店が、常連客に惜しまれながら閉店を余儀なくされた店主たちの想いは

如何ばかりか。

中央大通りと福井駅前電車通りに挟まれた通称「三角地帯」の東側A街区には、マリオート系列のホテル「コートフォード・バイ・マリオート福井」やオフィス、カンファレンスホールが入る27階建てのホテル・オフィス棟、駐車場棟、28階建てのマンション棟を建設。各低層階に商業施設が入り、飲食店をそろえた「フールドホール」が目玉となる。西側のB街区には医療・福祉、商業施設の建設を計画。

A街区は令和5年春とされていた新幹線開業と同じ時期のオープンを目指していたが、建物のアスベストやくいの撤去、新型コロナ対策の換気強化などで全体スケジュールが

1年余り伸びることになった。新型コロナウイルス感染症対策も想定外だろうが、北陸新幹線の金沢―敦賀間開業が1年延期とともにA街区の再開発事業も1年余の遅れを余儀なくされることになり、駅周辺のにぎわい創出に向けた論議や整備スケジュールに影響が出るのは必至。だが、それだけではない。

平成30年8月、A街区の基本計画時の総事業費は約300億円で、国、県、市の補助金を約120億円見込んでいた。それが、翌年11月に人件費や資材の高騰による建築コスト増を理由に総事業費約377億円となり補助金が150億円に。今年になってさらに総事業費が約30億円も膨ら